

145号 目 次

- 1 P 窓口「あのね、野田君」 窓口
2 P 上祐さんから手紙を受けて 「上祐さんへー1」 窓口
3 P～ 上祐さんから再手紙を受けて 「上祐さんへー2」 窓口
6 P～ 手記「宮城刑務所だより」 元サマナ、男性、受刑者
12 P 窓口「上祐さんがらみの3題」

2007/3/28「あのね、野田君」 <http://sky.ap.teacup.com/takitaro/>

ブログにコメントがあったのですね。

窓口より

>野田 <http://alephnode.blog85.fc2.com/blog-entry-26.html>

>滝本先生こんにちは、おひさしぶりです。

>先生の言葉引用させてもらってます。一度ご覧下さい。

どこの野田さんかと思ったら、なんと、アーレフの代表野田成人君なんだね。うーん、なんとも。軽いなあ。

上祐もひどく軽いし、まだまだ映画を見たいようだけれど、ご自身はなんで尚更に、なのかなあ。

ご自身、いくら何でもそこまで気軽に書き込める立場ではないんだがな。ご自身は、神秘体験とかかなりしてしまった方だったっけ？ 忘れた。うーん「毒を食らわば皿まで」をいつまでやってるつもりか、が気になります。

脱会相談の場合は、どうぞ直メールでね。

そろそろご自身もいいんじゃないかな。

あっ、引用の箇所は、正確には「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対的に腐敗する」と言い、私の言葉でもありません。歴史学者 J・E・アクトンの有名な言葉で、だからこそ「三権分立」が創出されたものです。これが独裁制に対する大きな批判であります。

自分自身の言葉としては、それに続けて「もちろん腐敗するに止まらない」という表現を入れればいいのに、と思ってます。 草々

2007/3/28 「上祐さんへ」 - 1

<http://sky.ap.teacup.com/takitaro/>

上祐さんへ自筆の手紙が先ごろ来たね、返事が遅くなってすみません。自筆の手紙のことについては、改めてこのブログに書くなどしたから来たようなので、当面、ここにレスしておきます。

今後は、自筆は大変だろうから、署名は別として、本文は自分打ちのパソコン文字でいいですから、書いて送ってください。

あの、謝罪文って、一度出せば終わりで良いというものではないからね。対応ある被害者はそういないものですから、大切にしてくださいませ。私、加齢のせいもあるのだろうけれど、同年齢の中ではやたら弱い目になってしまってる。

返事は、下記のすべてをいきなりは困難だろうから、まず1からでいいですよ。

あと、うーん、時にはビデオで映画でも見られたら？と思う。
黒澤明監督の「生きる」あたりとか。

質問1 - 自分の関与した犯罪事実と、その他の犯罪事実の覚知について、自分は勿論その他の誰も起訴されなかった事案を含めて、年月順にすべて明らかにされたい。

上祐派および自分のブログに記載されているものは記載されないでよいです。

質問2 - 薬物のイニシエーションは、どれをいつ頃、何回程度受けたのか。薬物だと知っていたか、途中で知ったか、またはその可能性があるとわかったか。

それによる体験について、現在どう捉えているか。

質問3 - オウムでの2を含めた「神秘体験」については、現在どのようなものと捉えているか。

質問4 - 自らの神秘体験また「解脱」というものをどう捉えているか。

質問5 - いま「麻原彰晃」また「松本智津夫」を、どう捉えているか。

質問6 - ご自身は、宗教団体を率いる「宗教的な能力」は具備したのか、それはどのように判断した、またされたのか。

質問7 - 「新団体」は、ネット上によれば「衆生を救済」せんとするようだが、そのとおりか、その資格が代表役員たる自分また構成員にあると考えているのか。

2007/4/18 「上祐さんへ」 - 2

<http://sky.ap.teacup.com/takitaro/>

3月30日付の間違いなく上祐さんサインを入れた手紙が4月2日に届きました。ここの3月28日付記述に対する返事であり、ありがとう。

遅くなって申し訳ないですが、ここに再返事します。まあ、このブログで私は上祐さんミクシーほかについていろいろ書いているが、その一方で私が、上祐さんにおいても、レスせざるを得ない形で書いていることを、まあご容赦下さい。

いつか、上祐さんと会える状態になれば良いなあとは思っています。

再返事の前に、忘れないうちに書いてしまっておくと、

質問8 - 家族の会からの解散勧告書は知らないのですか。この12月4日記述にあります。それに対して返事がないままなのは、ひどく失礼な話だとは思わないですか？

私としても、あの文章についての一項目ずつのレス、感想を聞きたいものです。

質問9 - 上祐さんは、自分で直接、人から金銭をもらえるように働く気はまったくないのですか？

「宗教事業」ではなくてね。イエスノーでね。

質問10 - ミクシーっていのうをどうして始めたのですか、閉鎖する気はないですか。あそこは、登録した人の素性その友人関係などある程度は分ってしまうものです。

勧誘のため、と誰だって考えますけど、勧誘の為だとしては述べていないようですね、だったら閉鎖する気はありますか？イエスノーでね。

質問11 - 映画「生きる」はもう見ましたか？見てね。

なお、今後の返事は、上祐さんブログで良いですよ。この際オープンの方が良いだろうと思いますから。

>>1 - 自分の関与した犯罪事実と、その他の犯罪事実の覚知

>>自分は勿論その他の誰も起訴されなかった事案を含めて、年月順にすべて

>>上祐派および自分のブログに記載されているものは記載されない
でよい

これは「全ての自分のサイトで書く予定」とのことですね。
細大漏らさず書いて下さいね。
全て書いたときは、終了と書いて下さいね。

>>2-薬物のイニシエーションは、どれをいつ頃、何回程度受けた
のか。

>>薬物だと知っていたか、途中で知ったか、

>>またはその可能性があるとわかったか。

これは94年に2回とのことですね。いつ、どれを、が書かれてい
ないですよ。「麻薬系統の薬物かどうかは分かりませんでした」が「特
別なものが入っている」と体験上感じたとのこと、

あの一、麻薬の類も薬としても使われます。一方、通例の「薬」も、
治療の為になければ違法使用ですよ

で、質問に直接答えていないですね、
私は「薬物のイニシエーション」と聞いてます。
直接、再度、質問2について、正面から答えなおしてください。

>>それによる体験について、現在どう捉えているか。

これはサイトでの総括に含めるとのことですね、了解。後に、更に
必要あれば質問します。

>>3-オウムでの2を含めた「神秘体験」については、現在どのよ
うなものと捉えているか。

>>4-自らの神秘体験また「解脱」というものをどう捉えているか。

>>5-いま「麻原彰晃」また「松本智津夫」を、どう捉えているか。

これはサイトでの総括に含めるとのことですね、了解。後に、更に
必要あれば質問します。ああ

質問4の2-「解脱」は、高い山チョミランマに登っていくようなも
の、と麻原さんはたとえていましたが、オウム真理教での「解脱」は、
マリアナ海溝に落ちていく解脱だったと思いませんか。

>>6-ご自身は、宗教団体を率いる「宗教的な能力」は具備したの
か、それはどのように判断した、またされたのか。

上祐さんは、これに対して下記のとおり答えてますね。これは答えになってません。

このご質問は非常に難解です。

まず、宗教的な能力とは何かという問題があり、そもそも、宗教団体のリーダーが、自分が人間の一人であるにもかかわらず、何か特別な力を具備したと考えることは、その程度にもよりますが、その人が慢心に陥る危険性があり、その典型が松本氏だったと考えます。

その意味で、同じ轍はふまない所存であり、常に努力して慢心をいさめることが、松本氏に関する手痛い教訓を背景に心に刻むことだと考えております。

なお、宗教の中には、その団体のリーダーが特別な能力あるとかではなく、先達・後達であるという位置づけのものも少なくありません。ともかく、身の丈にあった位置づけでやっていこうと思います。

では、逆な聞き方で、具体的に聞きます。

質問6の2－ご自身には、ご自身として考える「宗教的な能力」はないのですね。自然現象がご自身の影響で変わるとかのこともないのですね。

質問6の3－「先達・後達であるという位置づけ」と述べていますが、ご自身は何についての、どのような「先達」なのですか。その根拠はどこにありますか、それはどう認定しましたか。

>>7－「新団体」は、ネット上によれば「衆生を救済」せんとするようだが、

>>そのとおりか、その資格が代表役員たる自分また構成員にあると考えているのか

これについては、「新団体は衆生への奉仕というコンセプトを抱いております」とのこと、なるほど、では

質問7の2－それは「衆生の救済」とは別のものなんですか？

質問7の3－「衆生への奉仕」であろうが「衆生の救済」であろうが、衆生の意見、特にオウム真理教事件で被害を受けた人が、「救済・奉仕」として、上祐さんらに何を求めるか、についての意見を聞く気はありますか、それを尊重する気はありますか。これはイエス・ノーで答えられます。

以 上

2007. 4. 16 金

宮刑なぶり。

①

今回は苦しむことについて記してみたい。

今までの人生を振り返ると、私は苦しみを極力避けていたことに気付く。例えば長距離走は大の苦手だが、なぜあんなに苦しいのに皆が走ろうとするのだろうと、いつも思っていた。また、山登りも~~難~~辛く苦しいものだが、いくら山頂からの眺めが絶景であっても、わざわざあんなに苦勞なことをしてまでも山に登らなくてもいいのに、と不思議でならなかった。

このようなことから苦しいこと、辛いことは避け、おもしろいこと、楽しいことばかり追い求めてきた。しかし、オウムで行ってまたのは全く逆の苦しみへの追求だったように思う。ただ、初めは、楽しそう、おもしろそうという気持ちで縁があったのであり、いつの間にか苦しみへの道に流されていたのである。

私が苦しんだことでこんなことがあった。麻原が最初にロシアに行く数ヶ月前のこと。この頃、私は有頂点にいた。私はある信徒さんに一千万円のお布施を勧め、それを信徒さんが麻原に直接渡すということ^で成し遂げていた。当時は正悟師であっても一人の信徒さんからこれ程高額のお布施を集めていなかった(大内和裕さんはこれに近いことをやっていたみたいである)。

この頃、早川さんが麻原のロシア訪問の準備を進めていた。私はこの件を早川さんに直~~接~~接聞いた(当時はトップシークレットだった)。その時、彼は、~~私も~~^{私も}ロシアツアーに参加できるに違いないと言ってくれた。「それはわかりませんよ」等と~~言~~言ったが、内心ではまんざらでもなかった。お布施した信徒さんとも一緒に行きましょう等と言うものだから、私もその気になっていた。

それからしばらくして、私は修行に入れと言われた。当時、師は交代で各

(2)

行する事が通達されていたので、私もその順番が巡ってきたと思って修行に入った。これは、通常2週間くらいだったが、3週間たっても東京本部に戻れという辞令は下りなかった。少し長いかなと思いつつも、もう少し待っていれば何か下命されるだろうと思いながら^行修行を続けた。

この時の修行はかなり厳しかった。中でも一番辛かったのが、食事の量で、片手の掌分を1日1回支給(カロリーメイトのようなもの1本、おもち 1/2コ、カラアゲのようものの3つぐらい、ヨーグルトのようなもの300ccぐらい)された。しかし、1ヶ月もすれば出るだろうと思っていたし、修行がでまねくもなかったのと耐えることはできた。

毎日の修行はかなり厳しいし、ロシア行きの日付けも迫っていたので、私はだんだんあせてきた。そんなある日、ロシア行きのメンバーの発表があった。私は当然メンバーに入っているだろうと思ったが、通達には私の名前がなかった。その変わり、何の功績もない者がかりがロシア行きのメンバーに何人も入っていた。この件を境に、一気にやる気がなくなってしまった。

もちろん、出家した動機は海外に行きたいからではない。外国に行きたいというだけならば、オウに出家する前でも十分に行くだけの財産は持っていたし、稼ぐこともできていた。

また、オウに出家したのは解脱するのが目的なのだから、海外旅行に行くなどというのは欲望であり煩悩であるというのも十分に頭では理解していた。だからメンバーから漏れた時もそのように自分を納得させておとした。

しかし、この時は頭で心を制御することが全くできていなかった。頭で考え

③

納得せよとすればする程、心が乱れた。本来は、どんなことがあっても心を
平静に保つてであり、それが現在の自分の修行だと何度も思っていたが
全く焼け石に水だった。しかも、麻原に対する信がグラグラ揺ぐのをずっ
と感じていた。あまけに、この時は昔の麻原に対するマイナス感情・情
報が次々と甦った。それが私の心をどんどん揺った。

この為、私は全く修行が手につかなくなった。おまけに食事制限も厳し
い。いつ修行から解放されるかもわからない。期限が切られた修行ならば
どんなに厳しい修行でも耐えられると思うが、期限がない修行は全くダメ
だった。これらが、私の心に追い打ちをかけた。

毎日あまりに辛く、苦しい日々だったので地下室(第2サティアンで修行して
いたので、地下室へは階段で行けた)に行った。地下室では他の修行者
もダンボールで壁を作り、自分の世界に集中していたので、私も彼らに慣
て壁を作った。ただ、私の場合は、そこでふて寝する為だった。もっとも、
食事が極端に少ない為、腹がすいてなかなか寝れなかった。

現実逃避のドロップアウトを数日過したが、「もうオウムではやっていけ
ない」という思いが募った。それで、正悟師を通じて、麻原に、出家を止めたい
と伝えてもらった。その返事は何日たってももらえなかった。もう一度、正悟
師を通じて、伝えてもらった。これも全く無視されたので、もうダメだと思った。
私は、このままおめおめと修行を止めたのでは大きな挫折感を持つと思い、
5日間断水断食の修行を行ない、それが満了したら出ていくことを決めて、修
行に入った。この当時は、新しい成就の認定方法として、5日間断水断食

④

で地中の箱の中に埋められるとなっていたので、これくらいのことではあつたと思ふ。断水断食を思いついたのである。

私が食事時間に顔を出さなくなり、地下室に籠りまうになつたので、私の異変に気付いた麻原から3日目に呼び出しがあった。私は「もう修行はしたくない。あと1日半で5日間の断水断食が完了するから、その後は出て行く」と言うつもりで麻原に会った。そして、私が喋り始めると途中で遮り、「バカな考えはやめて、修行に戻れ。断水断食なんかするな。メシも好きなだけ食え」と逆ギレされてしまった。あつきの剣幕に、とりあえず断水断食は中止し、食事を以て地下室に戻った。

食事が増えても何も変わらなかった。なぜここにいるのだろうという自問自答ばかりを繰り返して、毎日をただ無気力に過ごすだけだった。このままの日がしばらく続いたある日、再び麻原から呼び出しがあった。

この時麻原から2つの提案があった。1つは、今の苦境を乗り越える為にはこのまま修行を続けること。そうすれば間違はなく大まかに成長すると言われた。もう1つは富士の道場（第2サライアは丸上丸にあり）で兄弟子達の面倒を見ることだった。私は、修行は手につかないし、今の状態では面倒も見れないと言った。麻原は「^ので、修行ができてないのならただ居るだけでもいい。面倒も見れたら見てくれ」と言われたので、富士行までは同意した。

私の気持ちには変わらなかったが、しばらくは様子を見る為だけに富士に行った。修行しなくてもいいというのは少し救われたからだ。私達は修行をする為に出家したのである。それができないというのが一番の苦痛だったのである。

⑤

富士では修行がでない者ばかりが集められていた。他の師は手に追えない者ばかりで、監督していた師は私の到着を心から喜んでいて。しかし、私はこれまでのことを簡単に話して「期待しないで欲しい」と伝え、その時の彼女の落胆は今でもよく憶えている。

これまでも何度か修行の監督をしたことがあるが、いつもビジビジ指導していた。その時は恨まれても後で必ず感謝されたし、そうすることが本人の為だと信じていたからだ。ただ、あまり苦勞しないで成就したので、修行がでないで苦しんでいる人の苦しみは理解できなかったからでもある。人は心の状態によっては修行をしなくてもできないことがあるのだが、その様な体験が少なかったので、単に「ダメモノ」のやる気がないだけだと決めつけていた。

しかし、この時は違った。何より自分自身が修行できないのだから、人にあれこれする資格があるはずがない。だから、弟子達にも好きなようにやらせていた。ある時は、「もうオウいを辞める」と言った男性がいたが、私はそれは反対しなかったし、説得もなかった。しかし、彼が夜に外出すると私は黙って一緒に付いて行った。しばらくは私のことを無視して歩いていたが、1キロ程歩くと、「もう帰った方がいっ」等と言われた。私は「なに歩いているだけだから気にするな」等とあって、そのまゝ付いて行った。再び1キロ程歩くと、^明日の朝は必ず戻るからもう戻ってくれ」と言われたので道場に戻った。私は^は彼を連れ戻そうとは思わなかったし、彼がオウいを辞めることには反対はなかったが、同僚の女性の師が「何とかが欲しい」と言うものだから、仕方ないに彼は付いていっただけだった。男性は翌朝、約束どおり戻ってきて、それから少し熱心に修行を

⑥

にいた（彼が辛いに戻ったことは結果的に良かったかどうかは疑問だが）。

この時期は辛く苦しかったし、成就者失格と周りに思われていたので、一番の逆境だった。しかし、今となっては大変貴重な体験だったと思う。これがあつたからこそ、他人の苦しみを身近に感じるようになった。心も少しは寛容になれたと思う。

カトリヤの詩の読者の中にはいろいろなことで苦しんでいる人も多いと思う。しかし、それは必ずやその人の財産になることを私は保証したい。苦しい時には、そんなバカなと思うだろうけれど、それを乗り越えたならば、必ずやいい思い出として残ると思う。

楽しい思い出だけでは人は成長しない。でも苦労したことは必ずその人を成長させる。だから苦しくてもそこから逃げずに乗り越えて欲しい。ただ、苦しいだけでは、辛いし、疲れるだけなので、わたしは息抜きも忘れないでいたい。

平成19年4月8日

平田 悟

2007/3/15 「あいた口が塞がらないっす」

——まず引用——

<http://sky.ap.teacup.com/takitaro/> より

2007年03月15日 11:34 31: 上祐 史浩

私のミクシィでの活動は、遊びではありません。

新団体を設立する前に、意見を交換する重要な場としたい、と考えてのものであり、賠償を最大化するには、現実としては、宗教事業が唯一の道で、外部への個人就労（アルバイトなど）では不可能になる、という事情をご理解下さい。

詳しいご説明は、別に致します。

なお、今後は、私もコミュのコメントに参加したいと思います。（後略）
http://mixi.jp/view_bbs.pl?id=16226890&comm_id=1943070

ふっー、宗教事業ね。 恥を知らないのかね。 あいた口が塞がらない。
自分で稼いでみな、高校生でもバイトしてる。現世が怖いんでしょう。
LSD体験を忘れられないのかな。

2007/3/23 「饒舌」

<http://sky.ap.teacup.com/takitaro/> より

うーん、上祐って本当にしょもな、と感じる。

いくら嘘をつくプロであり、
麻原さんから与えられた「嘘をつくことがワーク」という、
マハームドラーの修行だとしても、ね。

社会は、他人はそんな甘くないよ、莫迦じゃないよ、ということが、
いいかげん分らないのかなあ。

これから騙せる人なんて、所詮その程度の、幹部が言う「使えない」
人でしかない。

ディベートごっこ、「宗教事業」で解決する課題ではないんだけど
どね。上祐さん、自分で食っていきなさいな。

「巧言令色少なし仁」

という言葉を知らないのだろうか。

2007/4/9 「下卑た回答」 <http://sky.ap.teacup.com/takitaro/>より

ふっー、なんで（失礼ながら）こんなのを相手にしなければなら
ないのか。この人の質問の対する答えになっていない一つまり質問の趣
旨の意図的取り違え—ことはもちろん、

なんとも下卑た回答、本人はそれが分からないのだろうかけれど。

—以下引用 Mixi[上祐史浩・新団体 意見交換の場] トピック—

質問 何故お布施を欲するのですか？他人の金で賠償金ですか？

回答 宗教的には、お布施は、在家信徒が出家修行者に行う宗教的実
践であると共に、実際的には、教団がなす宗教的サービスに対する在
家信徒の支払いの側面もあり、やってみれば分かりますが、お布施を
受けることは容易ではありません。

＝窓口より＝